



あなたの写真が多久百景に。
 多久市は佐賀県の真ん中にある史跡の町。
 そこで、「多久の四季・伝統文化・歴史」
 をテーマに写真コンテストを開催し、5年計
 画で計100作品を集めて、『多久百景』
 を創ります。
 あなたが素敵と感じる多久の風景をお
 寄せください。

多久百景 写真コンテスト

平成29年度 第1回

平成33年度まで
全5回実施予定応募期間
※当日消印有効

2017.5/1月 → 7/31月

👑 **グランプリ** 《1名》賞金10万円 ※多久市報の表紙に掲載予定

👑 **準グランプリ** 《1名》賞金 3万円

👑 **審査員特別賞** 《3名》賞金 1万円

👑 **入選** 《15名》賞状と記念品 ※多久の特産品等

◆応募形態

作品はすべてプリントでご応募ください。
 サイズ/四ツ切(ワイド四ツ切可)カラー、モノクロ可
 単写真のみ(組写真は応募できません)
 2017年7月31日(月)までに撮影された作品のみ受け
 付けます。※加工作品は応募できません。

応募・
問い合わせ

〒846-0031 佐賀県多久市多久町1843-3 詳しくはホームページをご覧ください。 **孔子の里** **検索**
 公益財団法人孔子の里「多久百景 写真コンテスト」係 ☎75-5112 FAX 75-5320

KUSABA HAISEN

草場 佩川 その5

没後150年記念行事

佐賀藩に出仕するようになつた草場佩川の当初の住まいは「医学館」のある八幡小路でした。ここでの医師たちとの交流によつて佩川の学識はさらに幅広いものになっていきました。

実施するなど幕末西洋医学の先駆けとなつた佐賀藩の先進性をうかがえる作品です。佐賀市内には佩川が銘文を書いた医師の墓などもありますが、大阪にある日本近代医学の祖といわれる緒方洪庵の墓碑銘が佩川の撰文(文章作成)によることは佩川がいかに偉大だったかを物語っています。

(文責 尾形恵子)

「今日の医流は祖を西洋のピポクラテスに仰ぐ」とされた「必波臥(ヒポクラテス)図」には、中国伝説の医学者扁鵲が西洋に渡つてピポクラテスとなったのではないかという意外な憶測もあります。必波臥図は、漢方から蘭方へいち早く転換し、天然痘の予防接種を



◀▲草場佩川筆
必波臥(ヒポクラテス)図
個人蔵

問い合わせ

草場佩川の会 桑原峰俊 ☎75-6824

草場佩川の会